

# コミュニケーション教育

豊岡市教育委員会



# どんなコミュニケーション教育を行っているの？

「めざすコミュニケーション能力の視点とその留意点一覧表」に沿って日常生活・学習で行い、9年間の全教育活動で実践し、コミュニケーション能力の育成を目指す

## 「めざすコミュニケーション能力の視点とその留意点一覧表」

### 育成の視点

他者を理解する

自己を見つめる

他者と協働する

表現活動を取り入れ  
課題に取り組む

	前 期	中 期	後 期
めざす学びの姿	個人ひとりの生きる力を育てる 【人間関係形成力】 「話す」「聞く」といったコミュニケーションの基礎能力を徹底的に鍛える。	仲間と共に生きる力を育てる 【社会形成力】 単に「共に生きる習慣を身につける」だけでなく、共同作業によってパフォーマンスが上がる身体能力をふんだんにさせる。	仲間を（世界）を愛護して、発信力を身につける 【発信力・創造力】 「輝きに輝いて」の表現なのか、そのために「ど」のように「伝えたい何か」を、いつも意識させる。
育成の視点			
①自分とは異なる他者を認識し、理解すること	①他者と自分とは違う考えを持っていることがわかる（留意点） ②いろいろな人と会い話をし、 ③話し手の話を聴き、うなずくなどの反応しながら聞く。 ④わからない自分からわからないことをとずける。	①異なった立場や考えを大切にする（留意点） ②心をつなぐ努力を怠らなかつた。 ③自分の意見と比べながら聞く。 ④必要に応じて「質問しながら聞く」。	①異なった立場や考えを大切に入れ、自ら伝える（留意点） ②話し手の気持ちを考えてあひだつする。 ③自分の持つ常識や考えと比べながら聞く。 ④話の前後にあるものを考えたり、疑問がたつたら自ら聞く。
②他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考すること	①人との関わりを通して、自分の意見がもてる（留意点） ②自分の思いや考えをもち、 ③文（単語でない）で自分の思いや考えを伝える。 ④自分の考えと相手の考えのどこが違うのかがわかる。	①人との関わりを通して、自分の考えをつくらせていく（留意点） ②話の前後や異なった意見をメモする。 ③理由や根拠を示し、根拠を立てて話す。 ④自分と異なる考えや意見に対して判別する。	①人との関わりを通して、自分の考えをつくらせ、それが前も実感できる（留意点） ②相手の立場や考えの偏りに応じて、自分の考えを伝える。 ③自分の考えを深める。 ④自分の考えのよさが分かる。
③集団を形成し、他者との信頼、協働が図られる活動を行うこと	①集団の中で決められたことに自分を取り組むことができる（留意点） ②ルールを守る。 ③他者の人と意見が違っても、自分を守りながら意見を言う。 ④話し合いがけがわからないことを自力でやるようになる。 ※自分と違う意見の人を否定せず、「何故、どこが違うのか」を考える。 ※課題解決力（与えられた問題を解決する力）の基礎力が蓄積される。	①集団の中で自分の役割を果たし、異質なメンバーの支障ができる（留意点） ②相手の立場を理解し、責任のある発言をする。 ③できない人や迷っている人を見つける ④目的をもって話し合う ※課題発見能力（自ら問題を発見し解決する力）を高める	①集団の中で他者の立場を理解し、受け入れながら活動を進めることができる（留意点） ②新しい役割、新しい役割を生む。 ③集団への貢献を考え、みんなと協力して活動する。 ④目的や集団に対して積極的に話し合う ※課題解決力（課題に責任を持って解決する力）を高める。
④対話やディスカッション、身体表現等を活動に取り入れつつ正解のない課題に取り組むこと	①少人数での話し合い場面において、意見を言ったり、聞いたりすることができる（留意点） ②互いの話を聴きながら話し、話題にそって話し合う。 ③身体表現等を取り入れながら話し合う。 ④対話に対して、自分の意見をもっと積極的に発言する。 ※①～③を行う際に、話し合うこと、聞くことの意味を感じとれることを重視し、対応する。	①心組という形式で、様々な意見、考えを「すりあわせ」して、問題が解決することができる（留意点） ②自分の意見や考えを積極的に話し合う。 ③身体表現等を用い、課題解決に向け、自分の意見や考えを伝え合う。 ④自分と異なる考えを受け入れ、積極的に話し合う ※①～③の活動で、反響で課題解決方法を活用する等して、楽しみながら集団で行って表現したりする。	①対話を通して、資料を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ合意形成・課題解決することができる（留意点） ②互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを表現させる。 ③合意形成に向け、様々な手段・活動でお互いの意見交換を促す。 ④実生活の中で、様々な課題・活動でお互いの意見交換を行う。 ※①～③を活動、ダンス、音楽など、様々なコミュニケーションツールを活用して行う。

# どんな演劇的手法を取り入れたコミュ授業をするの？

小学校6年生と中学校1年生において、  
「合意形成する力」や「協働性」を高める、  
「多様性への理解」を深めることについて体験的に学ぶ

## 演劇的手法を取り入れたコミュ授業

### 1学期

### 2学期

### 3学期

小学校  
6年

「コミュニケーション・  
ゲーム」

(2時間)

対話劇を体験しよう  
「転入生が  
やってきた」

(3時間)

「ダメですか？  
ダメですよ」

(2時間)

中学校  
1年

「ジェスチャー  
で場面作り」

(2時間)

「オリジナル短歌  
と演劇づくり」

(2時間)

対話劇を創ろう  
「〇〇を伝える  
対話劇を創ろう」

(3時間)

# 「転入生がやってきた」(小6 2学期)



「合意形成する力」や「協働性」を高める  
「多様性への理解」を深める



## どうして、小学校6年生と中学校1年生ですか？

- 中1ギャップに喘いでいる子どもたちを包み込むことへの期待

※「中1ギャップ」… 小学校から中学校に進学するときに生じる「生活や学習の変化にうまく乗り切れないこと」

- 小学校6年生

慣れた仲間と一緒に、慣れた場所で、小学校6年間に培ってきたコミュニケーション力を試し高める場

- 中学校1年生

中学校生活のスタートに伴い、新たな仲間と一緒に、新しい場所で、コミュニケーション力をさらに高める場

# 子どもにとって、教師の手応え、保護者の見え方…

小学校6年

「転入生がやってきた」

「こうしてみたら？」

「それ、いいかも！

ナイスアイデア!!」



平田氏、田野氏を交えた  
事後研究会を開催

中学校1年

「ジェスチャーで場面作り」



「何かが運ばれてくるぞ!!」

「おいしそう!何食べる？」



## つばやき①「どうして、演劇なの？」

- 表現形態が**多様**である（テーマ、場の設定、人数等）
  - ※ 創作劇あり、コントあり、漫才あり
  - ※ 喋らないという表現も可
- 活動に**自由度**がある
  - ※ **対話**をしながら台本等を作り、**繰り返し練習**して演じる活動が組み込まれている  
（正解が一つではない 何度でも作り替えることができる）
- **楽しみ**ながら活動できる
  - ※ 楽しいと素の自分（特性や癖）が出る
  - ※ 楽しい記憶ほど、強く、長く残る

## つぶやき②「大切にしたいことは...」

- ☆ **協働してピンチを乗り越える体験をする**  
例) 課題に関するピンチ (創作料理名 台本づくり  
異質な課題の挿入 台本交換 等)  
人間関係に関するピンチ (男女 日常と異なる関係 等)  
表現に関するピンチ (伝えたい内容を伝える 等)
- ☆ 異なる考えを持った子どもが、互いの考えを  
つき合わせ、すり合わせて、**新しいものを生み出す**
- ☆ 上手くいかなかったことを自覚し、**どうすれば上手  
くできるようになるかを考える (トライ&エラー)**  
※ 役割や内容の決め方 練習の仕方  
時間の使い方 等

# 学習指導要領における位置づけは？

## 【学習指導要領 総則】

各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基礎となる資質・能力を育成していくことができるよう各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

## 【文部科学省 有識者会議】

コミュニケーション能力を学校教育において育むためには、

- ①自分と異なる他者を認識し、理解すること 【他者を理解する】
- ②他者意識を通して自己の存在を見つめ、思考すること 【自己を見つめる】
- ③集団を形成し、他者と協調、協働が図られる活動を行うこと 【他者と協働する】
- ④対話やディスカッション、身体表現等を活動に取り入れつつ正解のない課題に取り組むこと 【表現活動を取り入れ課題に取り組む】

などの要素で構成された機会や活動の場を意図的に設定する必要がある

コミュニケーション能力を学習の基盤となる資質・能力の一つとして捉え、教科等横断的な視点に立って、意図的に育成する